

潜水艦監視

一部防衛相に伝えず

海幕が恣意的選別か

中国海軍対策などで日米が一体で運用していることが明らかになった最新型の潜水艦音響監視システム（SOSUS）

II☆NEWSの言葉IIについて、防衛省海上幕僚監部が歴代防衛相（旧防衛庁長官を含む）を選別し、一部には何の説明もしていなかったこ

とが15日、防衛省、海上自衛隊への取材で分かった。

（4面に関連記事）

歴代首相には必ず説明していたという。自衛隊法上、首相は自衛隊の最高指揮官だが、防衛相が直接指揮監督すると規定されており、防衛相

に対する恣意的ともいえる情

報開示は、政治が軍事に優越する文民統制（シビリアンコントロール）を逸脱する可能性がある。海幕は「コメントできない」としている。

複数の防衛省、海自幹部によると、最新型SOSUSは「日米安保体制の最高機密」で、在任期間が短いことが予

想されるなど信頼性が低いと判断した防衛相には、存在すら説明していなかった。

首相や長期在任が予想されるなど信頼感がある防衛相には、制服組自衛官の海幕防衛部長、防衛課長らが設置図などの資料を基にシステムの概要を説明していたが、資料はその場で回収していたという。

在任数カ月だった防衛相経験者は取材に「説明を聞いたことは一切ない」と断言。

1年以上務めた経験者は「具体的な内容は言えないが、指折りの最重要情報だった。

資料は回収された」と説明を受けたことを認め、「海幕は信頼できそうにない大臣、短命そつな大臣には言わない。人を見てからだ」と事実関係を裏付ける証言をしている。

最新型SOSUSは10年以上前に敷設されたとみられるが、詳細な時期は不明。文民である首相、防衛相以外では、防衛省内でも制服組の海上幕僚長、背広組防衛官僚の防衛政策局長、運用企画局長ら十数ポストの要職にある人物にしか説明していないという。

（共同通信編集委員 石井暁）